

バスケットボールプラザ

Basketball Plaza

No.93



2022 年 3 月

NPO 法人 日本バスケットボール振興会

目 次

○ 日本協会創立100周年の2030年に向けて・・・・・・・・・・理事長 渡邊 誠・・・・・・	2
令和4年（2022年）は通過点	
○ FIBA ワールドカップ2023アジア地区予選・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3
男子日本代表1次予選・Window2結果	
○ FIBA女子ワールドカップ2022予選・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	5
グループCの結果・本戦出場権獲得	
○ 2021年度第97回天皇杯・第88回皇后杯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	8
○ SoftBankウィンターカップ2021・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	10
第74回全国高校バスケットボール選手権大会の結果	
○ Bリーグ情報・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	13
○ Wリーグ情報・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	15
第23回リーグ開幕しオールスター戦へ	
○ シニアチーム紹介 シルバーキッズレディース・・・・・・・・・・普及部・・・・	17
○ 会員だより	
☆ Gentlemens 堺の紹介・・・・・・・・・・佐々木 政治・・・・	19
後輩、市川慎也さんよりの寄稿	
○ 高校籠球ふるさと記（奈良県編）・・・・・・・・・・・・・・・・事務局・・・・	24
○ 高校籠球ふるさと記（佐賀県編）・・・・・・・・・・・・・・・・事務局・・・・	29
○ 訃報・追悼文・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・事務局・・・・	33
○ 事務局だより・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・事務局・・・・	36
○ プラザ こぼればなし・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	37

日本協会創立 100 周年の 2030 年に向けて

令和 4 年（2022 年）は通過点

理事長 渡邊 誠

2022 年がスタートしましたが、新型コロナウイルスの感染が続く中で、いろいろな社会活動が制限されています。

振興会も本年 2 月に予定されていたシニア交歓大会の開催を中止しました。新たな活動を施策し、検討する必要があると考えています。

1930 年に「大日本バスケットボール協会」が創立されて以来、バスケットボールを愛した人たちの悲願が 90 年目に実現しました。

日本協会創立 80 周年の時に、JBA2010 宣言の「JBA100 周年（2030 年）に向かって」と 100 周年への目標を発表しました。目標の一つ「男女日本代表の 2020 年オリンピック出場と 2030 年までにオリンピック・世界選手権のメダル獲得を目指す」が、今回のオリンピックにおいて「男女日本代表オリンピック出場・女子日本代表銀メダル獲得」を実現したことによって 10 年目にして達成したわけです。

「2021 年日本女子代表のオリンピック銀メダル獲得」は、日本バスケット界 90 年の歴史の中に残る偉業といえます。

日本サッカー協会は、2 月 10 日に小学生以下に当たる第 4 種の個人登録料（サッカー 700 円・フットサル 500 円）を 2022 年度から無料にすると発表。登録制度の一環で、少子化のなかにおける選手登録や普及を進める狙いです。協会としては、収入減になるが「個人登録を増やし、生涯にわたってサッカーに関われるように広げたい」意向です。同協会の登録人数は 40 歳以上を除いて各年代で減少傾向にあります。

バスケット界でも以前から小学生以下から登録費を徴収することについて意見もありました。シニア世代でも「自助・共助・公助」の考え方言えば、「自助・共助」の環境、「少子・高齢化の社会」を予測して各協会の運営も今後の社会を見据えた普及を進める施策であると考えます。

「定期的な運動」と「健康、長寿」の関係は、スポーツ基本法にも、スポーツについて「健康で活力に満ちた長寿社会の実現に不可欠である」と記されています。

バスケットボールは、筋力アップにも有効、仲間とのつながりなど生涯にわたって楽しむことができるスポーツ。参加できるスポーツの機会ができるような環境を整えるように国や自治体などにも期待したい部分です。環境を整えることがシニア層にとって強く望む要素であり、環境（体育館）が整えば生涯にわたって続けることができます。

2030 年（日本協会創立 100 周年）に向けて、今後の社会環境が変化する中で、日本のバスケットボール界がどのような存在となるか想像すると楽しみになります。

以上

FIBA ワールドカップ 2023 アジア地区予選

男子日本代表 1 次予選・Window 2 結果

[編集部]

1 次予選 Window 1 で中国に 2 敗の日本代表チームは、2 月下旬の Window 2 を 1 勝 1 敗とした。以下にその戦績を記す。

日本代表チーム（グループ B）：1 次予選 Window 2 の結果

<主なスタッフ>

役 職	氏 名	所 属
ヘッドコーチ	ホーバス トム	公益財団法人日本バスケットボール協会
アソシエイトヘッドコーチ	ゲインズ コーリー	公益財団法人日本バスケットボール協会
アシスタントコーチ	佐々 宜央	宇都宮ブレックス
アシスタントコーチ	勝久 ジェフリー	川崎ブレイブサンダース

<「AKATSUKI FIVE」選手>

※所属は2022年2月26日現在

	NO	選手名	P	身長 cm	所 属
*	1	齋藤 拓実	P G	172	名古屋ダイヤモンドドルフィンズ
	2	富樫 勇樹	P G	167	千葉ジェッツ
	3	エヴァンス ルーク	C	203	ファイティングイーグルス名古屋
#	4	安藤 誓哉	P G	181	島根スサノオマジック
#	10	竹内 公輔	P F	206	宇都宮ブレックス
	16	佐藤 卓磨	S F	197	千葉ジェッツ
	19	西田 優大	S G	190	シーホース三河
	20	寺嶋 良	P G	179	広島ドラゴンフライズ
	24	アキノ マシュー	C	205	信州ブレイブウォリアーズ
#	25	野本 建吾	P F	201	群馬クレインサンダース
	28	マーフィー アイザイア	S G	196	広島ドラゴンフライズ
	30	今村 佳太	S G	191	琉球ゴールデンキングス
*	32	シェーファー アヴィ 幸樹	P F	206	シーホース三河
*	51	古川 孝敏	S F	190	秋田ノーザンハピネッツ
	55	谷口 大智	P F	201	茨城ロボッツ
		平 均		192.3	

エントリー

*：チャイニーズ・タイペイ戦のみ

#：オーストラリア戦のみ

PG ポイントガード、SG シューティングガード

SF スモールフォワード、PF パワーフォワード、C センター

Window 2 日本の戦績（「チャイニーズ・タイペイ」は「台北」と略記する）

2月26日

	Q1	Q2	Q3	Q4	計
台北	21	18	14	18	71
日本	15	18	16	27	76

第1クォーター、日本代表は、ターンオーバーから台北に連続シュートを決められて以降、数点差を追いかける展開から終盤に相手得点加わり、6点ビハインドの15得点のみで終わった。第2クォーターは最初から追い上げ、中盤で追いつき追い越したが残り3分あたりでリードを許して点差を詰められなかった。後半、日本代表は、第3クォーターを、前半同様の展開から多少点差を詰めて最終クォーターに進む。第4クォーターは、開始直後に西田の連続得点で一気に1点差まで詰め寄り、更に富樫の連続2本の3Pシュートで逆転した。以降、1～2点差のリードを守り、最後の2本のフリースローを西田が確実に決め、5点差で勝利した。

このゲームで最年少の西田（三河）は、2Pを7/9の78%、3Pを2/4の50%、フリースローを7/7と、両チームで最大27得点を挙げて気を吐いたが、日本代表チームの2Pシュート成功率56%は残念。しかし、主要スタッツのデータは日本が台北に勝っている。

2月27日

	Q1	Q2	Q3	Q4	計
オーストラリア	22	20	22	16	80
日本	14	26	9	15	64

第1クォーター、日本代表は試合開始で富樫らが積極的に攻めてリードしたが、オフェンスでの動きが鈍く、前日同様8点ビハインドの14得点のみで終わった。第2クォーターに入るとオフェンスが徐々によくなり逆転するが再度リードされ、40-42の2点差で前半を終わる。後半の第3クォーター、日本代表は相手チームの長身者リズムに合わせられて得点が富樫の3Pシュート3本の9点のみと伸びず、49-64と15点のビハインドを負った。第4クォーター、日本代表は徐々に点差を広げられたが、終盤、相手チームのベンチメンバーに対して点差を詰め、16点のビハインドで敗れた。

日本に対するオーストラリア、2Pは13/24の54%対26/43の60%、3Pは10/36の28%対7/24の29%というシュート成功率で、日本の2Pエリアにおける得点の貧しさが目立つ。さらに、ディフェンスリバウンドは18対27と大差をつけられているが、ディフェンス面よりオフェンス面でスピードと3Pシュートの成功率アップが課題である。

総評

今回、日本代表の低身長者が必要とする素早い動き、確実な3Pシュートがゲームを通じて発揮できず、相手の方がこれらのプレイで勝っていた。すなわち、攻守にわたり相手チームに押されていた。ホーバスヘッドコーチは、日本選手に世界の強豪選手を相手に経験させ充分に対抗できる能力を植付けようと、今までの対戦をその強化手段としている、と感じる。代表選手がこの経験を活かし今後大きくステップアップすることを期待したい。

以上

FIBA 女子ワールドカップ 2022 予選 グループCの結果・本戦出場権獲得

[編集部]

「FIBA 女子ワールドカップ 2022」予選は 2022 年 2 月 10 日～13 日に大阪市おおきにアリーナ舞洲で開催された。

開催前の 2 月 7 日、代表メンバーが新型コロナ感染のため、ベラルーシ代表チームの出場辞退が決まったと、F I B A から発表された。このため、予選のグループCは 3 チームで戦い、本戦出場への結果が一時保留されたが、3 チームとも本戦に出場できることになった。

2 月 8 日に発表された代表メンバーは下記の通りである。渡嘉敷が復帰しているが元気な若手も加わり、平均年齢は 26.6 歳となっている。

＜主なスタッフ＞

役 職	氏 名	所 属
ヘッドコーチ	恩塚 亨	(公財) 日本バスケットボール協会
アシスタントコーチ	上野 経雄	(公財) 日本バスケットボール協会
アシスタントコーチ	鈴木 良和	(株) ERUTLUC

＜「AKATSUKI FIVE」選手＞

* 年齢・所属は2022年2月8日現在

NO	選手名	P	身長	体重	所 属
			c m	kg	
3	馬瓜 ステファニー	P F	182	78	トヨタ自動車アンテロープス
8	高田 真希	P F	185	74	デンソーアイリス
10	渡嘉敷 来夢	C	193	85	E N E O S サンフラワーズ
11	谷村 里佳	P F	185	87	日立ハイテククーガーズ
12	三好 南穂	S G	167	57	トヨタ自動車アンテロープス
15	本橋 菜子	P G	164	55	東京羽田ヴィッキーズ
16	近藤 楓	S G	173	62	デンソーアイリス
23	山本 麻衣	P G	163	58	トヨタ自動車アンテロープス
27	林 咲希	S G	173	65	E N E O S サンフラワーズ
32	宮崎 早織	P G	167	57	E N E O S サンフラワーズ
88	赤穂 ひまわり	S F	184	71	デンソーアイリス
99	オコエ 桃仁花	P F	182	85	富士通レッドウェーブ
	平 均		176.5	69.5	

PG ポイントガード、SG シューティングガード、SF スモールフォワード、PF パワーフォワード、C センター

グループCの対戦結果と日本代表チームの戦績は下記の通り。

グループC

世界ランクは2021年8月9日のもの

順位	チーム（世界ランク）	カナダ	日本	ボスニア・ヘルツェゴビナ	ベラルーシ	勝	負
1	カナダ（4位）		● 79-86	○ 96-64	○ 20-0	2	1
2	日本（8位）	○ 86-79		● 82-87	○ 20-0	2	1
3	ボスニア・ヘルツェゴビナ（27位）	● 96-64	○ 87-82		○ 20-0	2	1
4	ベラルーシ（11位）	● 0-20	● 0-20	● 0-20		0	3

日本代表チームの戦績

日本代表チームは、FIBAランキング4位のカナダと27位のボスニア・ヘルツェゴビナと対戦、格上のカナダには勝ったが格下のボスニア・ヘルツェゴビナに敗れ、1勝1敗で終わった。

2月10日

	Q1	Q2	Q3	Q4	OT1	計
日本	15	8	23	27	13	86
カナダ	17	23	14	19	6	79

第1クォーター、日本はカナダのディフェンスに苦しみながらも2点差の15-17で終えた。第2クォーター、渡嘉敷の2Pシュートで同点にするもその後日本にミスが続き、次に渡嘉敷の2Pシュートが決まるまでのほぼ5分間、日本はフリースローの1点のみ、カナダには2本の3Pシュートを含む外郭からの得点があり20-28と8点のビハインドとなる。その後も日本の3得点に対して12得点を許し、前半を23-40と17点ビハインドで終える。

後半、第3クォーターの日本は、開始からカナダの攻撃を止められず、反則もあって中盤に27-47と最大20点差となる。その後、日本は徐々に得点を重ねて挽回し、残り4分ほどで46-54と8点差に迫る。第4クォーター、日本は、更に点差を徐々に詰め、残り4分を切ったところで65-65の同点に追いつく。その後、追いつ追われつという状況となり、終盤、赤穂の攻守にわたる活躍もあって73-73の同点で延長戦に入った。

延長では、残り2分ほどに赤穂、渡嘉敷、三好のシュートが決まって5点リードとし、これに続いて赤穂と馬瓜のシュートが決まり、86-79の7点差でカナダを突き放して勝利した。

シュート成功率は、日本が2Pで24/50の48%、3Pで8/20の40%に対し、カナダは2Pで22/57の39%、3Pで6/16の38%と、日本が勝っている。また、日本：カナダで、オフenseリバウンドは10：16だが、ディフェンスリバウンドは29：28と拮抗している。スティールは6：12という結果。

日本は、馬瓜が18点、赤穂が15点の得点だが、19分間出場の山本が12点、17分間出場の三好が8点を得点したことは立派である。特に、三好の5アシスト、1スティールと攻守の活躍は目立つ。

この試合で日本は第2クォーターの得点一桁ということが反省の材料となろう。

2月13日

	Q1	Q2	Q3	Q4	計
ボスニア・ヘルツェゴビナ	20	18	26	23	87
日本	23	23	24	12	82

前半の日本は、林、赤穂の3Pシュート攻勢で順調に得点する。第1、第2の両クォーター中盤に日本は10-12、28-29と逆転される場面があったが、終盤は危なげない攻守で46-38と前半を8点のリードで終える。

後半、第3クォーターも日本は順調に得点を重ね、一時10点差までリードを広げたが、70-64の6点差で終わる。第4クォーターに入ると、ボスニア・ヘルツェゴビナ（以後、ボスニア）のセンター#35がシュート、ディフェンスリバウンドにフル活動し始め、日本は残り6分を過ぎて75-76と逆転される。ボスニア#35 ジョンヘル・ジョーンズはWNBAで活躍する198センチのプレイヤーである。以降、ボスニア#35がリバウンドで頑張るとともに連続して得点し、日本を一気に引き離しにかかる。日本は、林、馬瓜が得点して詰め寄るもターンオーバーがあり、結局、82-87と5点のビハインドで競り負けた。

ボスニアの#35 ジョンヘル・ジョーンズは、2P 12/18で67%、3P 2/6で33%、フリースロー 6/6で100%のシュート成功率、ゲーム得点36、ディフェンスリバウンド18が記録されている。ボスニアチームとしては、2P 24/44で55%、3P 11/26で42%、フリースロー 6/10で60%のシュート成功率、ディフェンスリバウンド36が記録されている。

日本チームでは、林が3Pのみ7/12の成功率58%で21得点、赤穂が2P 1/4で25%、3P 4/5の80%で14得点である。日本チームとしては、2P 8/30で27%、3P 20/43で47%、フリースロー 6/6で100%のシュート成功率、ディフェンスリバウンド27が記録されている。

チームデータから推量できるように、日本の2Pシュートの成功率が低く、ペイントエリア内での身長差による劣勢がうかがえる。日本のデータの偏りをみると、ゲーム終盤の相手長身センターによる活躍が防げなかっただけでなく、日本本来の持ち味である速攻と外郭攻撃とが不十分となったことがうかがえる。

総評

日本代表は予選のグループCで世界ランク上位のカナダに延長戦の末、大逆転で勝利を得たが、ボスニア・ヘルツェゴビナにはリードを続けていながら終盤に逆転されて敗れた。いずれもゲームの最終5分での逆転劇である。反省の材料として問題点を追及し、今まで以上の素晴らしいチームに育つことを期待する。

ワールドカップ本大会の開催

本大会は、グループA～Dそれぞれから3チーム、計12チームが選ばれ、2022年9月22日（木）から10月1日（土）までシドニー（オーストラリア）で開催される。12チームはA・Bの2グループによる予選ラウンドを経て決勝トーナメントで優勝が決まる

以上

2021 年度 第 97 回天皇杯・第 88 回皇后杯

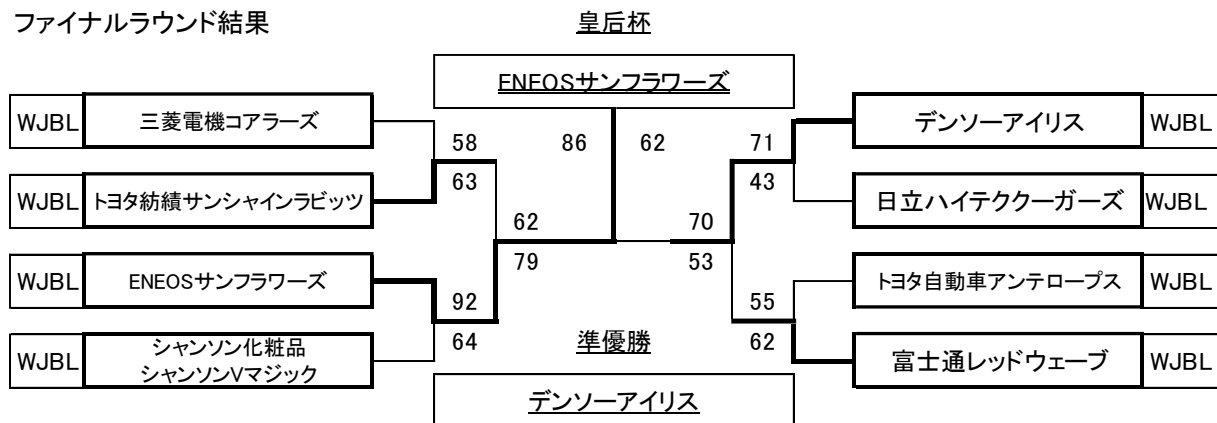
[編集部]

2021 年度の第 97 回天皇杯・第 88 回皇后杯全日本バスケットボール選手権大会は、新型コロナウイルス禍により、規模が縮小され、男女とも各都道府県代表が出場する 1 次ラウンドを廃止し、2 次ラウンドから実施された。

第 88 回皇后杯は ENEOS サンフラワーズが 9 連覇の優勝

女子は、12 月 15 日から 19 日まで代々木第二体育館においてファイナルラウンドが開催され、下記の結果となった。

ファイナルラウンド結果



決勝戦

	Q1	Q2	Q3	Q4	計
ENEOSサンフラワーズ	20	29	18	19	86
デンソーアイリス	19	16	14	13	62

安定した戦いで勝ち進んだ決勝戦カードは、多くの優勝を経験している ENEOS と、過去幾度となく決勝で阻まれて優勝経験のないデンソーとなった。

第 1 クォーターこそ接戦を演じたが、第 2 クォーターに入ると ENEOS は、外郭からの 3 点シュートと長身者のインサイドプレイで得点を重ね、前半で 49—35 と 14 点をリードする。

後半、デンソーが互角に頑張るが ENEOS の攻勢はとどまらず、ENEOS が常にデンソーの一步先を行く強さを見せつけて 24 点のリードで完勝した。

大会の MVP とベスト 5 は下記の通り。

MVP

林 咲希 (ENEOS サンフラワーズ #7) ※初受賞

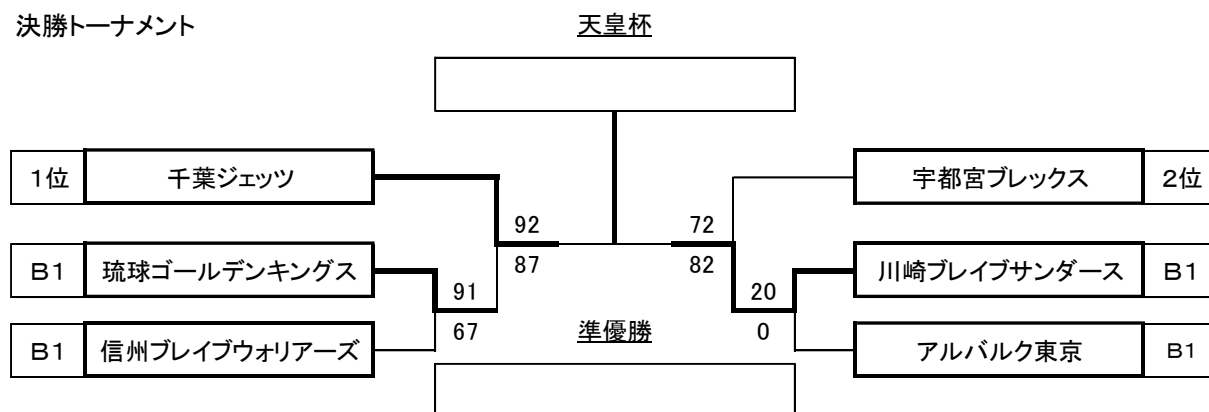
大会ベスト5

林 咲希	(ENEOSサンフラワーズ#7)	※初受賞
渡嘉敷 来夢	(ENEOSサンフラワーズ#10)	※2大会ぶり 11 回目
岡本 彩也花	(ENEOSサンフラワーズ#11)	※6大会ぶり 2 回目
高田 真希	(デンソー アイリス#8)	※2大会ぶり 6 回目
赤穂 ひまわり	(デンソー アイリス#88)	※2大会ぶり 2 回目

第 97 回天皇杯は決勝を千葉ジェッツと川崎ブレイブサンダースが戦う

男子は、下記のように決勝トーナメントが 1 月に始まってベスト4が決まり、2月9日には準決勝で、千葉ジェッツ（東地区1位）と川崎ブレイブサンダース（東地区3位）が勝利して、3月12日にさいたまスーパーアリーナで開催される決勝戦に臨む。

決勝トーナメント



準決勝戦

千葉ジェッツ（東地区1位）に琉球ゴールデンキングス（西地区1位）、川崎ブレイブサンダース（東地区3位）に宇都宮ブレックス（東地区4位）が挑んだが、両試合とも同様の経過となった。準決勝の二試合はともに、試合の前半に勝負が決まり、戦力を落とした第4クォーターで勝者が反撃を受けているが何とか持ちこたえたゲームであった。

アルバルク東京は（東地区2位）はコロナ禍により出場辞退となり、川崎との試合は中止された。

あとがき

Bリーグのリーグ戦真最中にばらばらの日程で行われる天皇杯の決勝トーナメント戦は、今一つ盛り上がりには欠ける。全日本選手権大会としては、まとまった日程であってほしい。

また、皇后杯と天皇杯の同時、同一会場開催は男女両リーグのブースター・サポーター・ファンが一堂に集まれるよい機会であり、この一発勝負であるトーナメント戦での盛り上がりを期待して、実現を願ってやまない。

以上

SoftBank ウィンターカップ 2021

第 74 回全国高校バスケットボール選手権大会の結果

年末恒例の全国高校選手権大会はメインを東京体育館、サブを駒沢体育館として 12 月 23 日から 29 日にわたって開催された。勝ち上がりトーナメント表を添付し、概要を記す。
決勝は女子男子共に激しいディフェンスによる低得点の接戦を演じている。

女子は、桜花学園が 3 連覇 24 度目の優勝

女子決勝戦

	Q1	Q2	Q3	Q4	計
桜花学園	19	11	16	15	61
京都精華学園	17	13	14	13	57

決勝は桜花学園と京都精華学園。双方固いディフェンスで 30-30 の同点で終わった前半に続き、後半もお互い一步も譲らず終盤まで競い合ったが、桜花学園が、要所で得点するとともに、相手の最後の反撃を抑えて勝利した。

◆大会ベスト 5

- ・朝比奈あずさ（桜花学園）
- ・平下結貴（桜花学園）
- ・横山智那美（桜花学園）
- ・瀬川心暖（京都精華学園）
- ・イズチェ・ウチェ（京都精華学園）

男子は、福岡第附属大濠が 28 年ぶり 3 度目の優勝

男子決勝戦

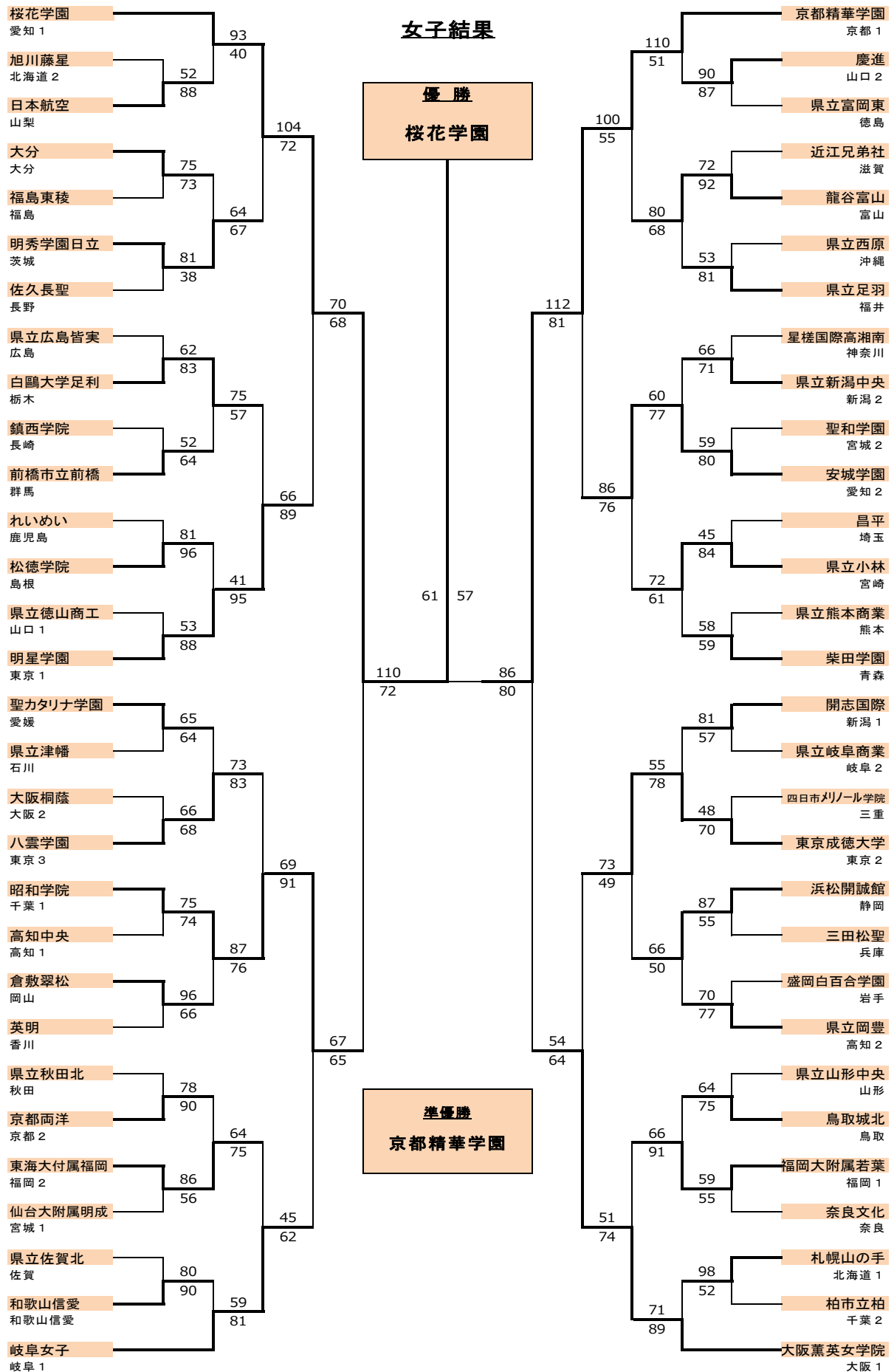
	Q1	Q2	Q3	Q4	計
福岡大附属大濠	14	14	15	16	59
帝京長岡	9	16	16	15	56

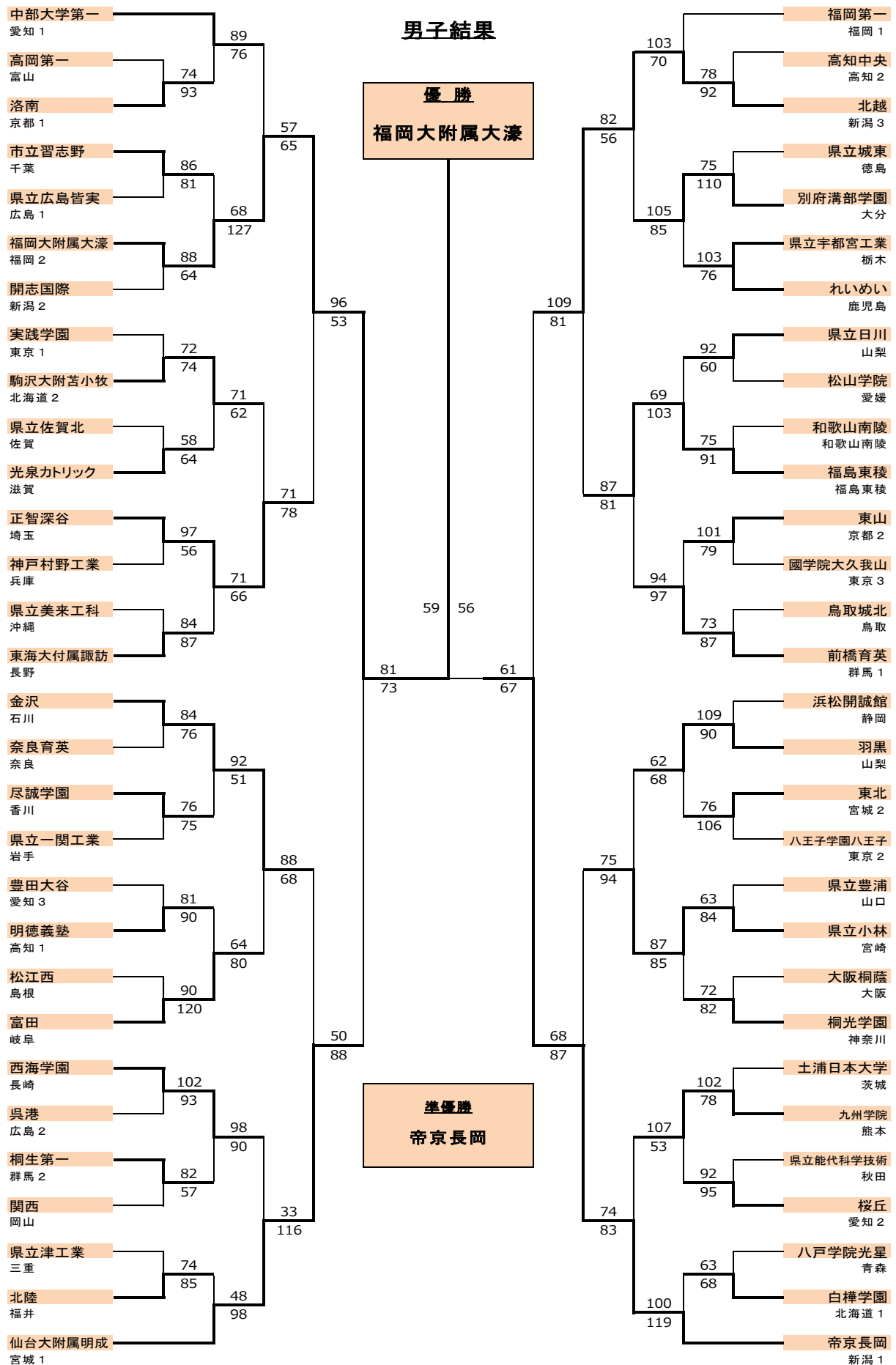
決勝は福岡大大濠と夏の総体準優勝の帝京長岡。双方の激しいディフェンスの中、第 1 クォーターは福岡大大濠が積極的な攻撃で 5 点をリードしたが、第 2 クォーターで帝京長岡の追い上げにより、福岡大大濠は前半を 3 点のリードで終える。後半も激しい攻防があり、福岡大大濠は、終盤に帝京長岡の反撃によりリードされて追いかける場面があったが、これを逆転して接戦を制した。

◆大会ベスト 5

- ・川島悠翔（福岡大大濠）
- ・岩下准平（福岡大大濠）
- ・湧川颯斗（福岡大大濠）
- ・島倉欧佑（帝京長岡）
- ・コネ ボウゴウジィ ディット ハメード（帝京長岡）

以上





Bリーグ情報

[編集部]

昨年10月に開幕したB1リーグは、一昨年からのコロナ感染の影響もあって、今シーズンは東西地区それぞれ11クラブによるレギュラーシーズンに入ったが、ここでもコロナ感染症の影響をまともに受け、中止延期のゲームが続出している。

クラブにおける感染者も増加し、クラブ内でクラスターに近い状況に陥って長期間ゲームができないクラブもある状況。

このままレギュラーシーズンが推移すると、クラブによってはゲーム数が異なる結果になってしまう可能性も否定できないが、順位の決定方法の第一が勝率によることなので、プレイオフに進出できるクラブを決めることはできるだろう。

2月末現在の成績は別表の通りだが、東地区で6クラブ、西地区で5クラブが勝ち越していて、ゲームごとに順位が入れ替わる激戦となっている。

東地区

順位	クラブ名	勝数	敗数	勝率
1	千葉ジェッツ	21	6	0.778
2	アルバルク東京	23	8	0.742
3	川崎ブレイズサンダース	25	9	0.735
4	宇都宮ブレックス	22	10	0.688
5	秋田ノーザンハピネッツ	19	12	0.613
6	サンロッカーズ渋谷	20	14	0.588
7	群馬クレインサンダース	15	18	0.455
8	横浜ビー・コルセアーズ	13	21	0.382
9	レバンガ北海道	12	21	0.364
10	茨城ロボッツ	7	26	0.212
11	新潟アルビレックス BB	5	29	0.147

勝率による順位のため上記だが、勝数でみると川崎が一步リードしている。川崎はベストメンバーに故障者もなく、このまま走ればやがて1位も見えてくるだろう。東地区で注目は昨シーズンB2で優勝し今シーズンからB1に入った群馬、上位の川崎と宇都宮から各々2勝を挙げて奮闘中。

コロナ感染の影響で試合数が少なく勝率でトップの千葉は、天皇杯が終わってからのリーグ戦がポイントで、名ポイントガードの富樫選手の好不調がカギを握る。

無条件でプレイオフ進出できる3位までを確保するため、これから勝ち越している上位クラブ同士の戦いが楽しみである。

逆に下位クラブにおいては1部残留を目指して星のつぶし合いになるだろうが、負け数が多いことが気にかかる。観客動員は別にして、成績不良はスポンサーの獲得に大きく影響するので、奮起を期待したい。

西地区

順位	クラブ名	勝数	敗数	勝率
1	琉球ゴールデンキングス	27	3	0.900
2	島根スサノオマジック	24	8	0.750
3	名古屋ダイヤモンドドルフィンズ	21	9	0.700
4	広島ドラゴンフライズ	20	16	0.556
5	シーホース三河	16	15	0.516
6	信州ブレイブウォリアーズ	17	18	0.486
7	大阪エヴェッサ	13	19	0.406
8	富山グラウジーズ	14	21	0.400
9	滋賀レイクスターズ	10	18	0.357
10	京都ハンナリーズ	7	27	0.206
11	三遠ネオフェニックス	5	28	0.152

西地区は琉球の勝率9割が驚異的である。力量のあるクラブでも長いリーグ戦においては疲れも出て、取りこぼしも増えるのに他地区交流戦も含めて3敗のみという数字は立派。試合中メンバーが変わっても同じペースで試合をこなせることと、粘り強いディフェンスが勝因とみる。

2位以下では今シーズン大幅に選手補強した効果が出ている島根に注目したい。シューターの金丸のポイントと外国籍選手がうまくマッチしての成績は安定している。

引き換えに東地区同様最下位クラスの成績が振るわないのは寂しい。30試合以上戦って一桁の勝利では、早々とB2陥落候補になってしまうだろう。

Bリーグの個人スタッツ

得点順で上位30名中、日本選手は島根の安藤選手1名しかいない。大型でスピードもありインサイドから得点できる外国勢選手の上位は仕方ないにしても、3Pシュートで稼げる日本人選手がもつと多くスタッツ上位に食い込んで欲しいもの。

試合を見ていると外国籍選手からのパスで3Pシュートの機会はかなり多いが、結果は肝心のところで不成功が目につく。決めて欲しいところでシュートが不成功になると、外国籍選手からのパスも回りにくくなり、さらなるシュートチャンスの減につながってしまう。

国際的にみて日本選手のパワー不足は否めないようなので、女子同様3Pシュートの確率を高めることは重要な要素と考える。

優秀な外国籍選手が多いBリーグでの試合は、日本選手にとってこの上ない練習の場所でもあるのだから、さらなる練習を積んでシュートの確率を上げてもらいたいもの。それには徹底したシュート練習しかない。

以上

お詫び

92号のBリーグ情報での移籍記事で、辻選手を島根へと記載しましたが、辻選手は広島ドラゴンフライズへの移籍が正解です。お詫びして訂正いたします。

Wリーグ情報

第 23 回リーグ開幕しオールスター戦へ

[編集部]

<第 23 回Wリーグ開幕記者会見>

第 23 回バスケットボール女子日本リーグ(W J B L)の開幕に先立ち、昨年 10 月 14 日(木)、都内ホテルで開幕記者会見が行われた。

・河瀬直美Wリーグ新会長より冒頭の挨拶

今シーズンのテーマと 3 つの公約の発表

テーマ：『つなげ。ボールを、感動を』

公約 1：Wリーグ史上初、10,000 人の集客に挑戦

プレイオフファイナルを国立代々木第一体育館 で開催し、10,000 集客を実現？

公約 2：河瀬監督、動きます

河瀬監督(第 50 回カンヌ国際映画祭
カメラ・ドール受賞、他多数の受賞
歴)がビブスを着てムービーカメラ
で選手の活躍を記録？

公約 3：競技を超えてつながり合う

『東京オリンピック 2020』公式記録
映画監督での交流により体操競技と
繋がり、Wリーグオールスター2021-
2022 に於いて、寺本明日香選手(2016
年リオデジャネイロオリンピック代
表)が演技！



撮影 池田 理

・第 22 回Wリーグ功労者表彰 以下の 4 名の方が第 22 回Wリーグ功労者表彰された。

- ・吉田 亜沙美 (元 ENEOS サンフラワーズ)
- ・栗原 美佳 (元トヨタ自動車アンテロープス)
- ・櫻木 千華 (元三菱電機コアラーズ)
- ・西井 歳晴 (元Wリーグ専務理事)

<レギュラーシーズン>

第 23 回W J B Lのレギュラーシーズンは新規参入の「プレステージ・インターナショナル アランマーレ」を加えた全 13 チームによる総当たりで行う方式となった。

・開幕カード

「東京 2020 オリンピック」後の 10 月 16 日(土)、「新潟アルビレックス B B ラビッツ VS アイシンウイングス」で始まった。

・ 2022 年 2 月 20 日現在の順位

以下の通り。

1 位	富士通	勝点 34	(16 勝 2 負)
2 位	シャンソン化粧品	勝点 34	(12 勝 10 負)
3 位	E N E O S	勝点 33	(15 勝 3 負)
4 位	トヨタ紡織	勝点 32	(12 勝 8 負)
5 位	トヨタ自動車	勝点 31	(15 勝 1 負)
6 位	デンソー	勝点 31	(15 勝 1 負)
7 位	三菱電機	勝点 27	(11 勝 5 負)
8 位	日立ハイテク	勝点 24	(6 勝 12 負)
9 位	東京羽田	勝点 23	(5 勝 13 負)
10 位	アランマーレ	勝点 23	(1 勝 21 負)
11 位	アイシン	勝点 21	(5 勝 11 負)
12 位	山梨 Q B	勝点 21	(5 勝 11 負)
13 位	新潟	勝点 20	(0 勝 20 負)

・ 順位決定方法

- (1) 順位は勝ち点により決定する。(勝ち：2 / 負け：1 / 不成立：0)
- (2) 2 チーム以上が同じ勝ち点の場合は、下記の順序で順位を決定する。
 1. 当該チーム間での対戦試合の勝ち点
 2. 当該チーム間での対戦試合の総得失点差
 3. リーグ戦での全試合の総得失点差
 4. リーグ戦での全試合の総得点の多いチーム

・ プレイオフの出場

2022 年 2 月 20 日現在で下記のチームがプレイオフの出場が決定している。

富士通、E N E O S、トヨタ自動車、デンソー

<Wリーグオールスター2021-2022 in 代々木>

1 月 29 日、30 日に開催予定のWリーグオールスター2021-2022 in 代々木は、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、2022 年 5 月 4 日、5 日に延期された。

<アーリーエントリー>

2021 年 12 月 28 日に 2022 年 1 月 1 日より公式戦に出場可能なアーリーエントリー選手・スタッフが発表された。

選手は 25 名(大学生 20 名、高校生 5 名)、スタッフは 2 名(大学生)の計 27 名。

インカレ MVP の木村亜美(東京医療保健大)はデンソー、優秀選手賞の山下詩織(白鷗大)は富士通、3 ポイント王の鬼塚綾乃(愛知学泉)は日立ハイテクよりエントリーされた。
以上

シニアチーム紹介 シルバーキッズレディース

[普及部]

今回のシルバーキッズレディース（SKL）の紹介は、昨年開催された“東京 2020 オリンピック”で大活躍した日本女子バスケットボールチームが日本中に“勇気と感動”を与えてくれたことが動機となった。

日本チームは、176cm とチームの身長が今大会 12 チームの中で最も低い、FIBA 世界ランキング上位のフランス代表を倒し、同ランキング一位の米国に対して健闘と呼べる戦いをした。平均得点は、81.7 で 12 チーム中 3 位、3P 成功率は 38.5% と参加チームでトップの成績。個人別のパフォーマンスでは、町田選手の平均アシスト 12、ナイジェリア戦での 15 本がオリンピックの 1 試合のアシスト数で最多の記録として残された。また、3P では、林咲希選手が同じナイジェリア戦で 11 本中 7 本の 21 得点という記録を作った。決勝では米国に 90 対 75 と敗れはしたものの、日本中に大きな感動を与えてくれた。

この感動を残すためにも、今回、女子シニアチームで活躍されるシルバーキッズ女子の紹介を記録に残すこととし、松田陽子さんから下記を頂いた。

シルバーキッズレディース（SKL）の誕生

松田 陽子



SKL を紹介するにあたっては、シルバーキッズ（SK）の歴史を語らずには出来ません。1999 年に関学大OBと同志社大OBが 3on3 の交歓試合を神戸市三宮の「こうべ市民福祉交流センター」で行っていました。それで“誰が言い出した訳ではないがバスケットやりたいなあ”の一言で 2000 年「いつまでも少年の心を」を合言葉に SK が誕生しました。2001 年より、こうべ市民福祉交流センターをホームコートとして当初は月 1 回程度の練習を試合形式でやっていました。

結成当時メンバーの平均年齢は 67 歳“驚異的な”年齢構成のチームが誕生!! そこで加入資格は「60 歳以上の籠球少年」としました。やはり対外試合を望む SK ですが同等チームが他に無く、兵庫県協会との人脈を生かして家庭婦人バスケット協会の強豪「FINE」のシニアに申し入れしました。

初の合同練習は 2001 年 8 月。

当時の最強メンバー：西村英子（ヤシカ）、中田光枝（安城学園）、森本操（武庫川女子短大）等の名選手。

当時を振り返り西村さんは語ります。

男性チームとの練習には少し不安もありましたが日笠、福島、武藤、西島さん方にお会いし、練習を始めると同じバスケットを愛する仲間同士、すぐに不安は楽しさになりました。以降 1 ヶ月に 1 度の練習だけでなく春のお花見、夏の暑気払い、年末の納会と楽しいイベントに参加。練習後のミュンヘン（行きつけのレストラン）は最高の時間になりました。

私が SK に入会したのは 2007 年 11 月高校バスケの先輩中田さんの紹介で 38 年ぶりにコートに立ちました。入って間もなく西村女子キャプテンが東京に引越しになり、SK の

皆さんの淋しさは当然の事SKLも急降下ぎみ。本格的にSKLを立ち上げる為、2008年9月豊中シニア交流試合に応援に行き試合終了後、吉岡、村尾をスカウト。その後、奥田、佐野、瀬瀬と!“私、何歳に見える!? 年の割には元気でしょう!? 一緒にプレイしませんか!?”とありったけのお誘いで入会して頂き、現在の主軸になっております。そして2008年11月第1回大阪シニアにSK&SKL揃ってデビュー!! この超OB&OGは阪神間のマスコミを賑わせました。

活動実績 *全国シニアバスケット交歓大会代々木

2009年 第2回大会より男女共に連続出場

*フリーダム(名古屋市) 毎年の定期交流交歓試合

*ねんりんピック

*大阪シニア大会

*横浜カップ(2pのみ)

【海外遠征交歓試合】

◆ハワイ遠征

2012年5月、ハワイの長身者を相手に女子6名も参加。元パナソニック名選手フリーマンとの対面!!

感激でした!!

◆台湾遠征



2019年3月男子の相手は70歳以上のチーム。女子はなんと元台湾ナショナルチーム!! 我がチームのエース元ユニバーシアード選手の久田修さん(旧姓:青木)が数十年ぶりの再会となりました。試合は完敗しましたが交歓会の乾杯は大盛況♥

後は台湾料理と観光を満喫しました。



現在部員数 男子 40名(最高齢91歳 西島靖之 同志社大)
 女子 25名(最高齢85歳 大平和子 元東芝)

創立20周年行事

コロナ禍で延期されていましたが、昨年11月13日、神戸市立王子スポーツセンターで無事開催する事が出来ました!!(フリーダム交流戦も開催)この20周年行事から30代~50代の新メンバーも参加しフレッシュSKLが輝いています。

SK&SKL 神戸にあり!! 万歳 ♥♥♥

(*文中、各氏の敬称は略させて頂きました。)



以上

会員だより



Gentlemens 堺の紹介 後輩、市川慎也さんよりの寄稿

佐々木 政治

今回、「Gentlemens 堺～部活動の経済支援と現役部員への幅広い視野拡大の機会提供を目指して」という標題で、大阪府立三国丘高等学校バスケットボール部の後輩である市川慎也さんに寄稿いただいたので、以下の通り掲載することとした。

市川さんは、高校バスケットボール部の顧問の先生から現場での困り事を聞いたことに端を発して、5年前に本活動を開始、多くの人の協力を得ながらも、独力で活動領域を広げて今日に至っているとのことである。

問題や課題を認識することとその解決に向けて実際に活動を行うこととは、改めて言うまでもなく大きな違いがある。まだ30歳台と若い市川さんは仕事も多忙を極めていることは容易に想像できるが、今回の活動が大きく発展し所期の成果を挙げることを切に願っている。

(副理事長)

Gentlemens 堺 ～

部活動の経済支援と現役部員への幅広い視野拡大の機会提供を目指して



Gentlemens 堺
市川慎也

この度、歴史あるバスケットボールプラザに寄稿する機会をいただき、大変嬉しく思います。バスケット三丘会（大阪府立堺中学校・三国丘高等学校バスケットボール部OBOG会）の先輩である佐々木政治様よりこのような機会をいただきました。ありがとうございます。

「Gentlemens 堺」は私のプロジェクト名で、関わる人すべてが成熟した人間になってほしいという意味と自分の出身地堺から始める意味とを込めました。「men」と「women」の複数で「Gentlemens」とした造語です。メンバーは私一人ですが、先生方、現役バスケットボール部員・保護者、OBOGの皆様、協力企業、地域社会の皆様にご協力いただいて今日に至ります。

会員だより

以下の2つが活動目的です。

- ✓ O B O G、サポーターと共に部活動支援の新しい土台を作る。(特に経済面)
- ✓ 高校・大学バスケットボール部の現役部員に競技と競技以外の視野を広げる機会を提供する。

Gentlemens 堺 H P の U R L と Q R コードとを載せます。よろしければ H P をご覧ください。

<https://www.Gentlemens-sakai.com>



プロジェクトの経緯

「バスケットボール部の現場の困り事を解決したい。」

2017 年秋から地元の高校バスケットボール部の練習を見学しながら、顧問の先生から現場の困り事を聞いていました。主な困り事は2つあります。

1 つ目は、学校からの部活動予算が少なく不足分は各ご家庭に経済的負担をお願いしていますが、家庭事情によってはその負担が非常に大きい場合があります。

平成 29 年のスポーツ庁の調査(別表)にもある通り、高等学校の運動部の保護者の負担は 60~70% と大きく、O B O G からの支援があるのは 6.8% です。外部との連携で経済的な援助を受けている学校はわずか 1.9% です。この保護者の負担が大きい問題を外部から何とかしたいと思いました。

もう 1 つは、通常の活動に加えてプラス α の経験を部員にさせてあげたいが、先生という立場では動ける範囲や時間的な制限があり、なかなか部員にプラス α の経験ができる機会を作れないというものでした。

プラス α の経験とはたとえば、海外チームとの交流試合、競技以外で部員の視野が広がる経験です。海外チームとの交流試合は特に公立高校を中心に難しいことがわかっていました。

部活動の予算

自身が主担当の顧問である部活動に係る予算(生徒会費等学校独自の財源を含みます。)について、該当する番号を全てお答えください。

中学校 運動部主担当										高等学校 運動部主担当									
(n/%)	全体	n4,421	公立	n4,138	私立	n283	全体	n5,883	公立	n4,370	私立	n1,513							
1.当初予算で十分賄える	1,677	37.9	1,545	37.3	132	46.6	1,704	29.0	1,182	27.0	522	34.5							
2.当初予算で不足した場合には、部員（生徒）の保護者から徴収している	2,554	57.8	2,418	58.4	136	48.1	3,916	66.6	3,016	69.0	900	59.5							
3.部活動への充当財源として、各部のOB・OGから寄付金を集めている	40	0.9	26	0.6	14	4.9	402	6.8	274	6.3	128	8.5							
4.部活動への充当財源として、学校設置者もしくは学校が企業協賛金等の外部資金を集めている	92	2.1	85	2.1	7	2.5	111	1.9	57	1.3	54	3.6							
無回答・無効回答者数	200	4.5	185	4.5	15	5.3	283	4.8	198	4.5	85	5.6							

中学校 文化部主担当										高等学校 文化部主担当									
(n/%)	全体	n1,245	公立	n1,049	私立	n196	全体	n4,086	公立	n2,938	私立	n1,148							
1.当初予算で十分賄える	565	45.4	462	44.0	103	52.6	2,013	49.3	1,390	47.3	623	54.3							
2.当初予算で不足した場合には、部員（生徒）の保護者から徴収している	567	45.5	491	46.8	76	38.8	1,650	40.4	1,250	42.5	400	34.8							
3.部活動への充当財源として、各部のOB・OGから寄付金を集めている	9	0.7	6	0.6	3	1.5	55	1.3	40	1.4	15	1.3							
4.部活動への充当財源として、学校設置者もしくは学校が企業協賛金等の外部資金を集めている	37	3.0	31	3.0	6	3.1	120	2.9	87	3.0	33	2.9							
無回答・無効回答者数	102	8.2	85	8.1	17	8.7	380	9.3	262	8.9	118	10.3							

平成 29 年度 スポーツ庁 運動部活動等に関する実態調査より

会員だより

2019 年 8 月 日韓高校交流試合

海外チームとの交流について考えたとき、自分が書いた大学の卒業論文を思い出しました。テーマは「学生スポーツにおける日韓交流の有効性」でした。海外の同年代の選手と試合をすることは当事者の視野を広げることに繋がります。しかしながら、ごく一部の私立大学でないと海外遠征も海外チームを招待することも難しいことでした。それは高校でも同じです。全体のプロデュースやスポンサー集めなどを先生の代わりに行えば、先生、チーム、保護者は負担なく国際交流試合のメリットだけ享受できます。そう考え、卒業論文執筆時にお世話になり、大阪府のバスケットボールとも関係が深い安徳洙さん（当時韓国WKBLのKB STARSヘッドコーチ）に約 10 年ぶりに連絡し、韓国の高校生を日本に招待して交流試合をしたい旨を伝えました。数度のやり取りと韓国訪問を経て、安さんのご子息が通う当時韓国の全国大会で優勝もしていた弘益大学付属高校が来日することになりました。スポンサー企業、個人サポーター、先生方、保護者の皆様、現役部員のご協力によって無事運営でき、弘益大学付属高校の大阪滞在費を負担することができました。

最終日の記念撮影



2020 年 5 月 コロナ禍でのオンラインキャリア教育

「よし今年も国際交流試合を！」と意気込んでいたところにコロナ禍になりました。1 回目の緊急事態宣言中は、公式戦はおろかチームとして集まることすらできませんでした。その頃急速に、ZOOMを利用したオンラインでのコミュニケーションが増えました。このオンラインに活路を求め、この期間に高校生の視野を広げる機会を作ろうとしました。社会で活躍する方々を講師に招き、オンラインでキャリア教育を実施しました。高校生のうちから親と先生以外の社会人から学ぶことは貴重な機会でした。

会員だより

2021 年 4 月～ OBOG 会費問題とオンラインキャリア教育の応用

このオンラインキャリア教育をやる中で、もう 1 つ解決したいことが解決できるかもしれないと思いました。それが部活動のOBOG会費が集まらない問題でした。全国的に部活動のOBOG会は会費徴収に苦戦しているようですし、そもそもOBOG会がなく経済的支援が受けられないチームもたくさんあります。徴収代行サービスもあるようですが、根本的な解決になっていないように思いました。会費徴収率の低い若年層を含めて、より多くOBOG会費を集めるためには、メリットのあるサービスや商品をいかに多くのOBOGに届けることができるかが重要だと考えました。

この課題を解決するために、OBOG向けに有料のオンラインスクールを主催してそのサービス料の一部をそのOBOGの出身チームに寄付すれば、OBOGにはメリットがあり、現役は経済的な支援が受けられると思いました。

2021 年に行った 5 回のオンラインスクールは下記の通りです。これまでご協力いただいた方、講師をお願いしている方は御礼として受講料を無料にしています。取り組みの性質上、講師に謝礼をお金でお支払いするのが難しいため、講師になる回以外の受講料を無料にすることを謝礼とさせていただきます。参加者の人数に比べて寄付額が少ないのはこのためです。

日付	講師	テーマ	人数
2021年4月25日	ステップフォワード株式会社 松原祥太郎様	英語留学事業からコロナ禍でのオンラインへの転換	10
2021年6月6日	東京ガス株式会社 社員	再生可能エネルギー 洋上風力発電の最前線	10
2021年8月1日	桃山学院教育大学 准教授	理想の教師とは？ 学校をよりよくしていくために私たちができること	33
2021年11月22日	株式会社ERUTLUC 鈴木良和様	指導者だけのものではない「私たちの」コーチング	32
2021年12月19日	株式会社/一般社団法人ピリカ コンサルタント 上越市地域おこし協力隊 三輪芳和様	環境分野のSDGs最前線	9

講師の方々のおかげで毎回好評いただいております。4回目で初めてバスケットボールに関するテーマで講演いただきました。同回のアンケートでは 88.9%の受講者が満足、11.1%の受講者が概ね満足（あわせて 100%）と回答しています。受講者からは「オンラインスクールに参加する度に生涯学ぶ事を辞めてはいけないなという気持ちになる」とのコメントもいただいております。

当オンラインスクールからの寄付はOBOG会があれば会費徴収の補助的な位置付けです。通常の会費はこれまで通りです。OBOG会が設立されていない場合、これから会を設立するには時間、コスト、手間がかかります。当オンラインスクールをご活用いただくと、これらを省略して現役を支援できます。

オンラインスクールの受講料と寄付割合について、1～3回目の受講料は大学生 500 円、社会人 2,000 円で、寄付の割合は 25%でしたが、それでは現役を十分には支援できないことがわかり、4回目から大学生 1,000 円、社会人は 2,000～5,000 円で金額を

会員だより

1,000 円単位で選択できるようにし、金額に応じて 50～80%を現役に寄付することになりました。開催 5 回での寄付額は 7 チームに 34,875 円です。

まだまだこの金額では現役の助けになっているとは言い難いです。周知方法に課題を抱えており、いかにたくさんの OBOG に私のこと、本取り組みについて知っていただくかを常に考えております。また、協力関係を築けるチームを増やすことも課題です。

本オンラインスクールの狙いはもう一つあります。コミュニティ作りです。参加者はそれぞれ問題意識を持っており、その解決のために参加者同士が繋がったり、新しいプロジェクトが誕生したりすることを期待しています。実際にいくつか繋がりができ、新しいプロジェクトが動き出しています。

今後

さらに協力チームを支援するため、企業にスポンサーとして商品を少し安く提供いただき、私がサポータープランとして販売したいと考えております。

OBOG 会がないチームの支援額は OBOG 会があるチームに比べて非常に少ないです。協力チーム OBOG 以外の一般の方もサポータープランを購入できるようにし、サポータープランの利益の 50%を基金とします。この基金は OBOG 会がない協力チームに分配して寄付します。OBOG 会がある協力チームの OBOG からのご支援は、利益の 50%をその方のご出身チームに寄付します。

この原稿執筆時点ではスポンサー企業が確定していないため、サポータープランは Gentlemens 堺の T シャツから始めます。



上述のオンラインスクールとあわせて「OBOG、サポーターと共に作る部活動支援の新しい土台」にします。本取り組みに共感いただける方はご支援いただけますと幸甚に存じます。一部寄付を前提とした学び・消費の体験は、通常の学び・消費そのものの以上の歓びが得られるかと存じます。

教育とスポーツは普遍的です。この取り組みがうまくいけば他競技や他地域にも応用したいと考えております。

何らかの形で皆様とも関わるができますと嬉しく思います。ご意見、ご感想、ございましたらお気軽にご連絡いただければと思います。(mail@Gentlemens-sakai.com)

どうぞよろしくお願いいたします。

以上

高校籠球ふるさと記（奈良県編）

[事務局]

奈良県のバスケットの歴史を語る場合、最初に思い浮かぶのは、志賀直三（文豪志賀直哉の舎弟）で少年時代から米国生活を送り、ペンシルバニア大学では唯一の日本人選手として活躍、帰国後、奈良の地で本場仕込みのオーソドックスな技術을子供たち（後述の村田寛三もその一人）に指導した（1924 年頃）。

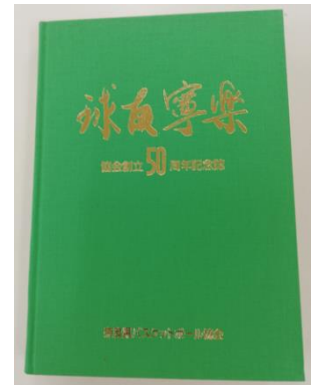
昭和に入り、その指導を受けた奈良師範OBが奈良師範や女子師範の生徒たちを指導し、彼らがOBとともに各地を巡回指導、バスケットの普及発展に努めた。

戦後は、戦禍の影響を殆ど受けておらず、米進駐軍のお陰で設備も整い、加えて前述の戦前からの指導の実績もあったので、バスケットのレベルにおいて他府県に先んじ、まさに奈良県はバスケットの黄金時代を謳歌していた。

奈良師範（後の奈良学芸大）の活躍（48、50、52 年と全国師範、学芸大学大会での優勝）、奈良女子大の活躍（東京文理大卒の石山平作の指導の下、51 年に関西学生女子一部リーグで優勝、その後も 54 年まで 4 年連続優勝。54 年の第 1 回全日本学生女子選手権で優勝）、奈良学芸大附属中学の活躍（50 年の全日本ジュニア大会での優勝、53、55 年の近畿大会での優勝）といった近畿・全国レベルでの活躍がそのことを物語っている。

そんな中、1948 年 4 月には東京文理大卒で旧制奈良中学の教諭であった田中良夫、旧制奈良師範の先生であった村田寛三、旧制郡山中OBの石田恒夫らが中心となって奈良県バスケットボール協会が創設された。

このような歴史と伝統を誇る奈良県のバスケットであるが、本誌では 1948 年（昭和 23 年）から 1988 年（昭和 63 年）迄を対象に、その間、県内で活躍した高校や選手、コーチ・指導者、更には当時の協会関係者にも焦点を当て、奈良県の高校バスケット界を通観してみた。内容的には奈良県バスケットボール協会創立 50 周年記念誌の他、客観的な資料に依拠し、まとめたつもりであるが、抜けや思い違いがあるかもしれない点、読者の皆様からのご指摘をお待ちしたい。（なお、個人名は敬称略、女性は旧姓、選手の卒業校名の後の数字は西暦卒年、高校名は原則略称）



先ずは、**男子**であるが、大きくは 6 つの期間に分けることができる。

第一期（1948 年—50 年）

郡山が強く、3 年連続でインターハイに出場。49 年の西日本大会での郡山のベスト 4 入りは特筆に値する。

この時期の著名選手としては、新井浩一（天理中—関西大：54 年にマニラで開催のアジア競技大会の日本代表、センタープレイヤーとして活躍）がいる。

第二期（1951 年—58 年）

奈良と奈良商工の 2 強時代。インターハイには奈良が 5 回、奈良商工が 3 回、出場して

いる。奈良の 56 年の第 11 回西日本高校選手権大会での第 3 位、57 年の近畿大会での優勝は特筆に値する。

この時期の著名選手としては、丸山博司（奈良 59－東京教育大－八幡製鉄：東京教育大時代は、シューターとして勇名を馳せ、3 回生の時、日本学生選抜チームの一員としてフィリピンに遠征、また 1961 年第 3 回ユニバーシアード大会にも全日本代表として出場。4 回生時には、東京オリンピック第 1 回ナショナルチーム選手に選考される。その後、八幡製鉄に就職、実業団でも活躍）がいる。選手引退後はビジネスマンとしても活躍、2020 年には、大学時代の吉井コーチからの教えや社業での経験をもとに「ビジネスパーソン&スポーツパーソン」のタイトルで著書を出版、大学生や社会人向けの研修講師としても活動中。

この時期、活躍した選手では、稲葉（奈良 54－奈良学芸大）、西山（奈良 56－関学大）、田村（郡山 56－関学大）らがいる。

第三期（1959 年—65 年）

奈良商工が圧倒的な強さを誇り、インターハイには、64 年の天理を除き、6 回出場している。

この時期、活躍した選手では、坂田（奈良 61－東京教育大）、森川（奈良 61－東京教育大）、吉岡（一条 62－立命館大－日本伸銅）、木村（奈良 62－同志社大）、溝辺（一条 62－日体大－近大付属高校教員）、奥野（奈良 63－立命館大）、久保田（一条 63－立命館大－日本伸銅）、松田（一条 64－東京教育大）、森田（帝塚山 65－関学大）、金野（奈良商工 66－立命館大）、柿本（奈良育英 66－同志社大）らがいる。

第四期（1966 年—72 年）

一条と奈良の 2 強時代。インターハイには一条が 4 回、奈良が 3 回、出場している。

この時期、活躍した選手では、中西（奈良 67－同志社大）、加藤（一条 69－関西大）らがいる。

第五期（1973 年—82 年）

群雄割拠時代。インターハイには生駒、奈良工、高田が各 2 回、添上、奈良、畝傍、樫原が各 1 回、出場している。奈良工の 76 年第 6 回全国選抜大会への出場（近畿 3 位）ベスト 16 進出、樫原の 82 年近畿大会での優勝、同年第 12 回全国選抜大会への出場（近畿 2 位）ベスト 16 進出は特筆に値する。身長に恵まれない分、運動能力・基礎体力・基礎技術の習得などに秀で、これが奈良県の目指すバスケットであることをアピールしていた。

この時期、活躍した選手では、赤松（畝傍 82－筑波大）、竹島（樫原 83－同志社大－丸紅）らがいる。

第六期（1983 年—88 年）

前半は、奈良工が強く、後半は一条と奈良の競い合いの時代。インターハイには奈良工が 4 回、一条と奈良が各 1 回、出場している。

この時期、活躍した選手では、中嶋（奈良 86－金沢大）、吉川（畝傍 86－天理大）、山岡（一条 87－立命館大）、巽（樫原 87－京都産業大）、山盛（平城 88－天理大）、林（一条 88－天理大）らがいる。

次に、**女子**であるが、大きくは5つの期間に分けることができる。

第一期（1948年—53年）

前半は榛原、後半は大淀の時代。インターハイには榛原が2回、大淀が4回、出場している。49年の西日本大会での大淀のベスト4入り、50年の近畿大会での大淀（優勝）、奈良女子大付属（準優勝）の活躍は特筆に値する。

特に、大淀は50年の全日本選手権県予選で、奈良女子大を破り、近畿予選でも西日本大会優勝の山城高校を破るなど創部3年にして素晴らしい戦績を残した。

この時期、活躍した選手では、赤坂、生地（いずれも大淀51—日紡山崎）らがいる。

第二期（1954年—69年）

一条が圧倒的な強さを誇り、インターハイには、65年の帝塚山、68年の高田商を除き、14回出場している。64年の奈良白藤の近畿大会第3位は特筆に値する。

この時期、活躍した選手では、木村、竹谷（いずれも一条—高島屋）北岡、柴（いずれも一条—興銀大阪）、吉川（一条59—京都女子大）、福村（一条59—京都女子大）、松本（奈良白藤66—武庫川女子大）、清水（一条69—武庫川女子大）らがいる。

第三期（1970年—75年）

前半は御所、後半は郡山の時代。インターハイには御所が3回、郡山が3回、出場している。

この時期、活躍した選手では、藤川（一条71—天理大）、平居（生駒72—市邨学園短大）、北村、中西（いずれも御所72—天理大）、樫尾（一条73—天理大）、上野（郡山74—天理大）、岩田（一条74—天理大）、山田（郡山75—天理大）、米田（桜井76—中京女子大）らがいる。

第四期（1976年—79年）

前半は、高田と奈良。後半は北和女の時代。高田と奈良は各1回、北和女が2回出場している。

この時期、活躍した選手では、藤本（奈良女子付属77—大阪女子短大）、原田（高田77—大阪体育大）、白井（添上77—中京女子大）、藤本（奈良文化女子短大付属77—天理大）らがいる。

第五期（1980年—88年）

奈良文化女子短大付属（以下、文短付）が圧倒的な強さを誇り、インターハイには、87年の高田商を除き、8回出場している（平成時代に入っても、文短付と高田商の2強時代が続く）。84年の文短付の第14回全国選抜大会への出場（近畿第3位）は特筆に値する。

この時期、活躍した選手では、別所（西の京85—天理大）、小奥（天理85—天理大）、中川（高田商86—樟蔭東女子短大—ユニチカ）、武田（高田商86—三洋電機）、久保田（文短付87—三菱電機名古屋）、飯野（文短付87—大阪体育大）、中川（文短付89—大阪体育大）らがいる。

<コーチ・指導者>

- ・小西 惣次 1918 年生まれ。奈良県師範学校卒業後、奈良学芸大学附属中学校教員として、奈良県バスケットボール発展の基盤になった附属中学校バスケットボールの育ての親。卒業生が後輩を育てに行くいい伝統も創った。82 年、日本バスケットボール協会功労賞受賞。
- ・常岡 常松 1922 年生まれ。郡山中一関学大卒業後、20 年間に亘り、郡山高校を指導。48 年から 4 年連続、同校を国体出場させた功労者。
- ・岡本 重夫 1931 年生まれ。奈良学芸大卒業後、奈良市立一条高校教員としてチームを指導。54 年から 64 年まで 11 年連続、同校をインターハイに出場させた功労者。その後、奈良教育大学教授。97 年、日本バスケットボール協会功労賞受賞。
- ・乾井 實 1933 年生まれ。奈良学芸大卒業後、県高校教員として奈良商工高校をスパルタ式で指導、59 年から 5 年連続インターハイに出場させた功労者。84 年、全国高体連専門部功労賞受賞。
- ・稲葉 悟史 1936 年生まれ。50 年附属中学校が全国制覇したときのメンバーであり、奈良学芸大学卒業後、教員として体育館を持たない奈良高校を西日本大会 3 位、近畿大会優勝へ導いた功労者。
- ・菊永 武司 奈良工業高校を指導、76 年には県勢としては初めて全国選抜近畿予選を突破し、同校をベスト 16 に導いた功労者。83 年から連続 4 回、インターハイ出場の偉業も成し遂げた。

<協会関係者>

- ・郡司 太右衛門 会長 1948 年—50 年
田中 良夫 理事長 1948 年—49 年
村田 寛三 理事長 1950 年
- ・中嶋 伊太郎 会長 1951 年—63 年
村田 寛三 理事長 1951 年—63 年
- ・吉田 之久 会長 1964 年—81 年
村田 寛三 理事長 1964 年—68 年
(1973 年、日本バスケットボール協会功労賞受賞)
藤川 重夫 理事長 1969 年—74 年
乾井 實 理事長 1975 年—81 年
- ・出口 武男 会長 1982 年—2017 年
(2018 年、日本バスケットボール協会功労賞受賞)
乾井 實 理事長 1982 年—87 年
(2011 年、日本バスケットボール協会功労賞受賞)
枅川 清 理事長 1988 年—92 年

- ・県高等学校体育連盟バスケットボール専門部

歴代専門委員長 <氏名の後の()内は所属高校>

初代 (1948 年—52 年)	田中 良夫	(奈良)
二代 (1953 年—63 年)	岡本 重夫	(一条)
三代 (1964 年—75 年)	吉田 公也	(畝傍)
四代 (1976 年—78 年)	稲葉 悟史	(郡山)
五代 (1979 年—80 年)	杉村 貢	(五条)
六代 (1981 年—84 年)	枅川 清	(一条)
七代 (1985 年—88 年)	宮本 靖彦	(城内)

(2020 年、日本バスケットボール協会功労賞受賞)

<その他>

- ・河瀬 直美 (バスケットボール女子日本リーグ会長) について

国際的に著名な映画監督。東京五輪・パラリンピックの公式記録映画の監督を務める。中学からバスケットを始め、奈良市立一条高校時代には国体 (87、海邦国体) 県代表選手に選抜されている。2021 年に W リーグ会長就任。

- ・加藤 真治 (株式会社バンビシヤス奈良 代表取締役) について

県立奈良高校から京都大へ進学、97 年に同大学院修士課程修了。都市銀行勤務を経て、2005 年に、プロバスケットボールチーム「仙台 89ERS」の立ち上げに参画、bj リーグへ参戦。2011 年には、地元に戻り、プロバスケットボールチームを作る活動を開始、2013 年に、バンビシヤス奈良を設立、同社代表取締役に就任。現在 B2 リーグで参戦中。

- ・奈良学芸大学の存在

1953 年に学芸大学の初期生、岡本、北出、吉岡、吉田、乾井、稲葉等、多くが卒業後、地元の高校や、中学の教員として赴任、バスケットを指導した。歴代の理事長も第二代の村田から藤川、乾井、枅川と続き、高体連バスケットボール部専門委員長も初代の田中が勇退後も、卒業生の教員がそのリーダーを務めている。男子第一期、二期、女子一期における西日本大会や近畿大会における奈良県勢の活躍の背景には、この存在があったといっても過言ではない。

【編集後記】

今回、奈良県の高校バスケットボールの歴史を通観するに際し、資料の提供や情報の整理の面で、奈良県バスケットボール協会様には、多大なご協力を賜った。誌面を借りて謝意を表したい。

高校籠球ふるさと記（佐賀県編）

[事務局]

佐賀県の高校バスケットボールを語る場合、最初に思い浮かぶのは、佐賀高校男子の1948年から1964年までのインターハイ連続出場である。佐賀一高時代の1948年、第1回インターハイ兼国民体育大会において準優勝を飾り、その後、1953年には、野口七郎監督の指導の下、第6回インターハイ、第8回国民体育大会、第8回西日本高校バスケット大会でいずれも優勝を飾り、その名を全国に轟かせた。

さて、佐賀県バスケットボール協会であるが、戦前、県バスケット競技の普及に尽力した大久保裕次をはじめ、武藤太喜雄、原口増次、服巻三郎、佳元保男、石橋俊一、百武敏勝ら県内のバスケット愛好者の協力のもと、1946年に設立された。

このような歴史と伝統を誇る佐賀県の高校バスケットであるが、本誌では1946年（昭和21年）から1988年（昭和63年）迄を対象に、その間、県内で活躍した高校や選手、コーチ・指導者、更には当時の協会関係者にも焦点を当て、佐賀県の高校バスケット界を通観してみた。内容的には佐賀県バスケットボール協会創立50周年記念誌の他、客観的な資料に依拠し、まとめたつもりであるが、抜けや思い違いがあるかもしれない点、読者の皆様からのご指摘をお待ちしたい。（なお、個人名は敬称略、女性旧姓、選手の卒業校名の後の数字は西暦卒年、高校名は原則略称）



まずは、**男子**であるが、大きくは4つの期間に分けることができる。

第一期（1946年—64年）

佐賀が圧倒的な強さを誇り、インターハイに17回連続出場している。

この間、48年（佐賀一高時代）には準優勝、53年にはインターハイ、国民体育大会、西日本大会で優勝を飾り、62年のインターハイではベスト8に進出している。

この時期の著名選手としては、野口昌三（佐賀一49—東京教育大—田辺製薬：大学4回生時、主将として関東大学選手権、同リーグ戦、インカレの3冠を制し、全日本選手権でも準優勝を飾った）（田辺でも近畿総合選手権で優勝、国体一般の部では大阪代表として2年連続優勝、54年の第2回アジア大会では後述の糸山選手とともに日本代表として銅メダル獲得、現役を離れてからは、関東実連や日本実連の役員として、更には東京教育大OBとして、バスケット界に多大な貢献をした）、糸山隆司（佐賀51—東京教育大—日本鋼管：全日本のセンタープレイヤー）（56年のローマ、60年のメルボルン両オリンピック大会に、日本代表として出場する他、54年、58年のアジア大会にも日本代表として出場）、武藤昌弘（佐賀54—東京教育大：58年のアジア大会日本代表候補、県バスケットボール協会理事長、同会長、日本バスケットボール協会理事、日本クラブバスケットボール連盟理事長）らがいる。いずれも当時の日本を代表する錚々たるメンバーといえよう。

この時期、活躍した選手では、武藤栄吉（佐賀一47—関学大—田辺製薬）、吉富、古川、鐘ヶ江、久米、竹原、古川、片岡（いずれも佐賀54）、徳永（佐賀57—日本大）、宗（小

城 57－日本大)、生田(佐賀 57－東京教育大－佐賀県教員)、緒方(佐賀 60－明治大－日本重化)、武石(佐賀 60－立教大－三井生命)、坂本(佐賀 61－法政大)、山田(佐賀 64－法政大)、田渕(佐賀 65－法政大)、大坪(佐賀 65－立教大)らがいる。

第二期 (1965 年—71 年)

佐賀が西、北、東に分離されたが、インターハイには佐賀西が 3 回、佐賀北が 1 回、あと、小城、佐賀商業、白石が各 1 回出場している。

この時期、活躍した選手では、江口(佐賀西 66－芝浦工大)、鶴(佐賀工 67－法政大)、中島(佐賀北 69－東京教育大)、貞松(佐賀北 69－佐賀大－佐賀清和教員－県バスケットボール協会理事、副会長、会長)、中島(佐賀北 69－東京教育大)、東島(神埼 70－東京教育大－佐賀県教員：県体協理事長、県高体連会長)、大島(神埼 71－福岡大－日本鋼管津)らがいる。

第三期 (1972 年—80 年)

72、73 年と佐賀工が連覇、インターハイに出場するも、その後は、佐賀北、唐津東、佐賀西、小城と群雄割拠の時代、後半の 77、79、80 年は神埼が 3 回出場。

この時期、活躍した選手では、天野(唐津工業 73－福岡大－東芝)、陣内(小城 75－福岡大)、大坪(佐賀北 75－筑波大－佐賀県教員)小柳(佐賀北 76－九州産大)、増本(唐津西 78－拓殖大)らがいる。

第四期 (1981 年—88 年)

81、82 年と佐賀工がインターハイに連続出場するも、83—87 年は佐賀北が連続出場。88 年は佐賀東が出場。

この時期、活躍した選手では、田代(多久工業 82－九州産大－東芝)、本告(佐賀工 83－福岡大－熊谷組)、吉田(三養基 84－日体大－佐賀県教員)、田中(新)(佐賀北 86－駒沢大)、田中(啓)(佐賀商 87－九州産大)、江里口(佐賀西 88－同志社大)、武藤(佐賀西 89－慶応大)らがいる。

次に、**女子**であるが、大きくは 5 つの期間に分けることができる。

第一期 (1946 年—59 年)

佐賀がインターハイに 12 年連続出場。54 年には全国ベスト 16、57 年にはベスト 8 に進出している。

この時期、活躍した選手では、川口(佐賀清和－リッカーマシン)らがいる。

第二期 (1960 年—63 年)

佐賀清和がインターハイに 4 年連続出場。

この時期、活躍した選手では、真子(小城 62－杉野女短大)らがいる。

第三期 (1964 年—72 年)

佐賀が 64 年(西、北、東への分離前年)に 5 年ぶりにインターハイ出場、65—68 年は佐賀西が連続出場、69—72 年は、70 年の佐賀北を除き、佐賀清和が 3 回出場している。

この時期、活躍した選手では、庄野（武雄 65－杉野女短大）、古賀（佐賀東 66－日体大）、三池（佐賀東 68－日体大）、馬場（佐賀西 69－日本通運）、片渕、石丸（ともに佐賀清和 72－ユニチカ宇治）、松尾（佐賀北 72－日本通運）、江口（佐賀東 72－日本通運）、小宮（佐賀清和 73－日本通運）らがいる。

第四期（1973 年—80 年）

小城が 73—75 年と 3 年連続インターハイに出場、75 年にはベスト 16 入りしている。その後は、佐賀清和、佐賀北、佐賀商、佐賀東の群雄割拠時代。

この時期、活躍した選手では、西村（佐賀清和 74－三菱重工長崎）、前山（小城 75－日本女体大）、糸山（佐賀清和 77－日本女体大）、溝口（佐賀清和 77－日体大）、江川（佐賀清和 78－東京女体大）、林田（佐賀清和 79－日体大）、宮城（佐賀北 79－日本女体大）、森（佐賀東 79－福岡大）らがいる。

第五期（1981 年—88 年）

佐賀清和がインターハイに 8 年連続出場。

この時期、活躍した選手では、土井（佐賀清和 82－三菱電機名古屋）、木村、内田（ともに佐賀清和 82－三菱重工長崎）、貞包（佐賀東 82－東京女体大）、大坪（佐賀東 85－三菱重工長崎）、竹下（佐賀清和 85－日体大）、富田（佐賀清和 86－三菱電機名古屋）、安田（藤蔭 86－三菱重工長崎）、古賀（藤蔭 86－第一勧銀）、岸川（佐賀清和 88－共同石油）らがいる。

<コーチ・指導者>

- ・野口 七郎 1923 年生まれ 佐賀師範から東京体育専門学校を経て佐賀中学へ奉職。佐賀高校のコーチとして同校を全国区の強豪校に育て、オリンピック選手の糸山隆司らを輩出。1953 年には、第 6 回インターハイ優勝、第 8 回国民体育大会、第 8 回西日本高校バスケット大会も制し、三冠を達成。この年、47 戦無敗の戦績を残した名将。その後、佐賀西高教員、県教育委員会職員を歴任後、佐賀大学教育学部教授。佐賀高時代の教え子である糸山隆司が、スポーツを選ぶか、勉強を取るか迷っていた時に「スポーツと勉強は両立する」という野口の言葉に発奮したのは有名な話。
- ・中島 正信（佐賀北 69－東京教育大－鶴鳴女子－佐賀清和－三菱電機－富士銀行－久留米工大教授） 長崎の鶴鳴女子では、共同石油に転じた中村和雄（元全日本女子ヘッドコーチ）の後任として同校を指導し、佐賀清和に転じてからは、スパルタ方式でチームを指導し、その後の同校の活躍の基盤作りを行った。その後、1987 年から 1993 年の間、全日本女子ナショナルチームのコーチとしても活躍。
- ・貞松 義人（佐賀北 69－佐賀大－佐賀県庁職員－佐賀清和教員バスケット部監督－県バスケットボール協会理事、同副会長、同会長） 佐賀北高校で同期の中島が三菱電機に移るため、彼からの依頼で佐賀清和バスケット部監督を引き継いだ。貞松の初陣は 82 年の鹿児島インターハイ、前任の中島とは対照的な指導方針で臨み、その後、同校を連続してインターハイに出場させている名将。

<協会関係者>

- ・ 中野 敏雄 会長 1946 年—49 年
 中西 五郎 理事長 1946 年—49 年

- ・ 田中丸 善次郎 会長 1950 年—57 年
 奥田 巖 理事長 1950 年—56 年
 武藤 太喜雄 理事長 1957 年

- ・ 福岡 日出麿 会長 1958 年—77 年
 野口 七郎 理事長 1958 年—65 年
 成富 重行 理事長 1966 年—69 年
 石丸 孚 理事長 1970 年—73 年
 武藤 昌弘 理事長 1974 年—77 年

- ・ 武藤 太喜雄 会長 1978 年—86 年
 武藤 昌弘 理事長 1978 年—86 年

- ・ 長沼 富士男 会長 1987 年—97 年
 武藤 昌弘 理事長 1987 年—97 年

武藤五兄弟について

戦後の佐賀県のバスケット界を振り返る時、触れておかねばならないのが、武藤五兄弟の存在である。下掲の通り、四男一女いずれも学生時代、あるいは教職においてバスケットに関わり、県のバスケット界をリードした功績は大きい。

長男の太喜雄は、龍谷中で主将、県協会の理事長そして会長として県バスケット界の発展に尽くした。

次男の義人は、佐賀商業、福岡高商で主将、勤務先のある兵庫県で県協会に参画、実業団連盟を作る他、当時、創成期であった神戸高校男子部で「鬼コーチ」と恐れられながらも独特の指導力を発揮、1952 年には近畿大会決勝で強豪の山城高校を破り、同校を福島国体出場に導いた立役者でもある。

三男の栄吉は、佐賀一高で主将、佐賀一高校から進学した関西学院大学、就職した田辺製菓で佐賀一高の 2 年後輩である野口昌三と一緒にプレーし、関西実業団とともにその名を轟かせた。

四男の虎栄は、龍谷中で主将、三男の栄吉同様、関西学院大学に進学、卒業後も武藤兄弟で兵庫県の国体代表選手として活躍した。

長女の志津代は、佐賀高女、成美女の教師時代に部指導した。

【編集後記】

今回、佐賀県の高校バスケットボールの歴史を通観するに際し、資料の提供や情報の整理の面で、佐賀県バスケットボール協会様には、多大なご協力を賜った。誌面を借りて謝意を表したい。

訃 報

黒川 敏雄 氏 令和 4 年 1 月 20 日 享年 91
小笠原 義昭 氏 令和 4 年 2 月 9 日 享年 88

長年にわたり、振興会会員として、日本バスケットボール界発展のため多大のご尽力を賜りました。
ここに、謹んで哀悼の意を捧げ、ご冥福をお祈り申し上げます。

黒川敏雄さん を偲んで

小澤 正博



昨年の暮れ黒川さんから、振興会のことを訊ねられる電話をいただきました。健康状態を聞いてみますと足腰がままならないので家で過ごしておられるとのことで一安心したのも束の間、急に体調が悪くなりそのまま他界されたとのことでした。

ご家族には、すべての式が終わってから振興会に一報するようと言われていたそうで、黒川さんらしく最後まで地味な道を歩まれたようです。

黒川さんは昭和 23 年(1948)に新制高校である千葉県館山市の安房高等学校第一期生として卒業され、卒業後当時高校卒では合格困難な三菱銀行へ就職されました。筆者の私も同じ高校ですが、そのころの安房高校バスケットボール部は千葉県でトップクラスの存在で、授業が終わってからの練習は相当きつかったものです。

三菱銀行へ入社された黒川さんは、三菱銀行でバスケットボール部の創設に尽力され、三菱銀行は早くから関東実業団連盟に加入、黒川さんはブレイの傍ら昭和 32 年(1957)から関東実業団連盟の役員として活躍されました。

関東実業団連盟ではリーグ戦やトーナメント戦の組み合わせや体育館の確保を担当する競技委員会や総務委員会に所属し、手作業による細かい仕事にボランティアで精励されました。その後銀行の職員ということもあって会計処理を監督する監事を担当されました。

昭和 35 年(1960)、日本実業団連盟が発足した後、昭和 37 年から理事に就任し、以後平成 12 年(2000)まで 38 年間の長きにわたり、理事、監事役を務められ、歴代最長の監事役として実業団バスケットボール連盟の発展に寄与されました。

昭和 39 年(1964)に開催された東京オリンピックでは、競技役員としての仕事もこなされ、平成 12 年(2000)には日本協会から功労者表彰も授与されました。

昭和 60 年(1985)に現在の振興会前身である「実業団協力会」設立とともに入会され、ここでも監事役として活躍する傍ら、組織が振興会に変わってからもバスケットボールプラ

ザの編集や歴史部の業務にも携わられ、令和2年(2020)までの長期間にわたって振興会に貢献されてきました。

黒川さんは、長い間組織の監事役として貢献されましたが、一方では試合の観戦が好きだったようで、ご自分の出身会社三菱銀行の試合はもとより、学生から実業団、当時の日本リーグに至るまで大変多くの試合を観戦しておられました。その観戦の結果かも知れませんが選手の名前や所属などに詳しく、振興会の機関誌バスケットボールプラザに観戦記などの投稿をよくいただいたものです。

また黒川さんのバスケットボール界に対するご意見はいつも沈着冷静で、あるときは歴史的観点から、あるときは人生的観点からなど、実に多角的に状況を観察しての発言が的を得ていました。

近年歩行中に転んで怪我をされ、回復はされましたが歩く際に杖を頼りにするようになり、振興会の3階事務所に出向かれる際、階段を登ることに苦労されるようになりました。今しばらくお元気でいて国際的に少し向上した日本バスケットボール界に対して、これまでと変わらない趣でご意見をいただきたかったのですが、大変残念なことになりました。ご冥福をお祈りいたします。 合掌。

[振興会副会長]

小笠原義昭さん を偲ぶ

小澤 正博



小笠原さんが逝去されたとの訃報は、審判関係の方からのご連絡でしたがとにかく驚きました。一昨年お会いした時はすこぶるお元気で、日本の審判の話やゲームに対応した笛の吹き方などについてご意見を伺ったところでした。

私が小笠原さんと知り合ったのは昭和30年代で、関東実業団リーグ戦の最中でした。当時関東実業団リーグ戦の2部以下は全て帯同審判制度で、自チームの試合の前か後の試合に必ず審判があり、多少審判の経験があった私が笛を吹いていた時、声をかけていただきました。

以来数十年、審判面だけでなく振興会でも多々お世話になりました。

小笠原さんは大変温和な方で、誰に対しても丁寧な対応をされ、いつも相手のことをよく理解された上でいろいろなことを話されていました。

審判の傍ら若い頃から関東実業団審判委員会の委員長をはじめとした諸役をこなされ、昭和46年(1971)に30歳代にして関東実業団連盟の理事長に就任されました。

小笠原さんといえばやはり審判で、実業団役員の傍ら日本協会でも活躍され、昭和36年(1961)に2A級公認資格取得、昭和41年(1966)に国際公認審判となって海外大会でも笛を吹いておられました。

カメラの日本光学(現㈱ニコン)に勤務されていた小笠原さんは、50歳の時、会社の都合で栃木県大田原市へ転勤となり、審判をリタイアされましたが57歳で定年退職後、東京へ戻られ、再びバスケットボール界で仕事を務められるようになりました。

それは若い審判の指導であったり、公認審判審査委員会の仕事だったのですが、一方で

は振興会でも活躍され、本誌バスケットボールプラザの前身であった「振興会だより」の編集作成に広報部員として貢献、広報、編集部や普及部の業務に献身されました。

振興会機関誌の名前が「振興会だより」から「バスケットボールプラザ」に変わったとき、その名前の名付け親となったのが小笠原さんで彼の提案でした。

小笠原さんは人一倍バスケットボールを愛しておられたようで、バスケット界で人が嫌がる仕事も積極的にこなされていました。日本協会国際公認審判OB会という組織がありますが、ここでも面倒な事務局長の仕事を引き受けておられました。よく言われた言葉ですが「誰かがやらなければ組織が成り立たない場合、自分が率先してそれに取り組むことです」という主張に小笠原さんの人柄が表れているように思います。

さらに晩年はミニバスの指導に力を注がれ、技術的な指導やミニバスの審判を積極的に務められ、審判のおじさんと云われながら若い人たちの成長に尽くしておられました。

かつて本誌に「人物抄」欄があり、小笠原さんに登場していただくため取材を申し込んだ際も快く対応してくださり、その記事に対して「我が人生のバスケットボール物語」と称した寄稿文を寄せられました。(バスケットボールプラザ 77 号参照)

決して派手な存在ではありませんでしたし、そういうことを好まない小笠原さんでしたが、どんな仕事でもこつこつとこなされ、まさに縁の下の力持ちといった存在でした。

それゆえ、バスケットボール界で小笠原さんのお世話になった方は相当多いはずですし温和な小笠原さんでしたので、どんなことでも気楽に相談ができる雰囲気を持っておられたように感じます。

振興会で 2012 年に国際審判員 OB の方々にお集まりいただいて座談会を催した際、先輩の方々に出席を持ちかけていただき、その会合が成功裡に終わったことも、小笠原さんのご尽力のおかげと、深く感謝申し上げます。長い間本当に有難うございました。 合掌

[振興会副会長]



国際審判員OB座談会での小笠原さん（椅子席右から二人目）

事務局だより

[事務局]

- ◇ 表紙裏面に掲載の写真は、「神戸バスケットボール資料室」に収集・保管してある戦前の大会風景です。(写真は神戸大学名誉教授 野村治夫氏より提供)
 - ① ②フリースローは、頭の上から投射している様子がわかります。
 - ③ ジャンプボールは、後ろに手をまわし、固定した状態で行うルールです。
 - ④ ⑤は、神戸オールスターアメリカンと大阪YMCAの試合です。神戸オールスターの外人チームは、翌日が日曜日なので残りの試合を棄権しました。
 - ⑩ は、マニラで開催された第7回極東選手権大会の「東京YMCA」チームです。「東京YMCA」チームは、第5回全日本選手権大会における東京・大阪・名古屋の3YMCAチームのリーグ戦で優勝し、日本代表に決まりました。
- ◇ 昨年、12月14日、シニア交歓大会参加チームの皆様には「シニア交歓大会の開催中止について」をご報告しました。いろいろなご意見もありましたが、やむをえない判断の結果であったとご理解していただき感謝申し上げます。
- ◇ コロナ禍の不安が続く中、事務局が活動のまとめ役として機能しています。このような状態ではありますが、会員の皆様には、積極的に振興会の活動にご参加、ご支援を頂きたく、また外部にアピールして会員勧誘にご助力を頂けることを願っております。
- ◇ **会費納入のお願い** 会費未納の方にはお願いします。
振興会は会員の皆さんの会費によって運営されておりますので、早めの納入にご理解とご協力をお願い申し上げます。

振込み口座番号

ゆうちょ銀行 00100-3-316035
NPO法人日本バスケットボール振興会

三菱UFJ銀行 神保町支店 普通預金口座 1684743
特定非営利活動法人日本バスケットボール振興会

みずほ銀行 丸の内中央支店 普通預金口座 1004687
特定非営利活動法人日本バスケットボール振興会

プラザ こぼればなし

- ◇ 富士通レッドウエーブ所属の町田瑠唯選手がWNBA加盟の「ワシントン・ミステックス」と契約締結したと、2月14日、富士通株式会社より発表された。WNBAとの契約は日本人選手として4人目となる。5月～9月のシーズンでの活躍が期待される。シーズン終了後は、帰国して富士通レッドウエーブに復帰し、2022-2023 年をWJBLでプレーするという。

- ◇ 「WEリーグ」(サッカー女子)と「Jリーグ」が「試合共催」(同日に同会場で試合)すると発表された。過去、バスケットの日本リーグ時代には、男女同日同会場での開催が多く実施されていた。男女同一会場の開催は、特定チームのファンだけでなく、広い世代への普及に貢献する施策であると思う。バスケットの共催も早く欲しい。

- ◇ FIBA女子ワールドカップ 2022 (9月22日～10月1日、オーストラリア・シドニーで開催)の組合せが発表された。日本代表は大会の予選ラウンドをグループBで世界の強豪と競う。

グループ A	ベルギー	中国	ボスニア・ヘルツェゴビナ
	5 位	7 位	26位
	未定	韓国	アメリカ
		13位	1 位
グループ B	フランス	セルビア	日本
	6 位	10位	8 位
	ナイジェリア	カナダ	オーストラリア
	14位	4 位	3 位

下段は2022年2月15日のFIBA世界ランク

- ◇ サッカー元日本代表岡崎慎司(カタルヘナ)が関わる神戸市内のサッカーグラウンドが3月下旬に完成する。岡崎は「オモイを実現する場所」「たくさんのSDGs(持続可能な開発目標)の要素をいれながら、長く続くみんなに愛される場所になればいい」と語っている。また、大リーグ・パイレーツの筒香嘉智外野手が、故郷和歌山県橋本市に天然芝の野球場を建設中であるという。その総工費2億円はポケットマネーで支払い、「筒香スポーツアカデミー」を設立し運営する予定とのこと。サッカー、野球とは異なるが、バスケット選手の競技に対する「オモイ」も同じ。
- ◇ 日本バレーボール協会は、理事会において、不祥事による会長と理事の解職処分があった。Jリーグは理事会を開催し、次期チェアマンにJ1札幌の野々村芳和会長を選んだ。この際、独立した役員候補者選考委員会を設置、コンサルタント会社を使って人選を進め、最終的に面接などを重ねて役員候補を決めた。各協会ともに「ガバナンス」(企業統治)と「コンプライアンス」(法令遵守)を最優先する運営を重視している。バスケットもこの方向に向かうのであろう。

N P O 法人
日本バスケットボール振興会
〒101-0051
東京都千代田区神田神保町1-40
豊明ビル 301号室
電話／F A X (03) 3219-9311
メール contact@jbbs.jp

神田バスケットボール資料室

戦前のバスケットボール

大正11年 1922年 7月2日

大阪藍球大会(中之島剣先公園)参加12チーム 優勝 大阪ビジネスクラブ



①フリースロー



②フリースロー



③センタージャンプ

大正13年 1924年 3月15日・16日 関西藍球連盟創立

第1回関西藍球選手権大会(関西藍球連盟創立・後援大阪朝日新聞・築港市設競技場)参加17チーム



④神戸オールスター

アメリカン対大阪YMCA
得点は16-6



⑤神戸オールスターアメリカン対大阪YMCA

翌日が休息日(日曜日)なので外国人
チームは次の試合は棄権する。



⑥シュート

大正13年 1924年 5月24日・25日

第4回全日本藍球選手権大会／大日本体育協会主催 3チームリーグ戦



⑦東京商科大学と大阪YMCA



⑧立教大学と大阪YMCA(戸山学校)

大正14年 1925年 4月18日・19日

第7回極東選手権大会兼第5回全日本選手権大会(戸山学校)3チームリーグ戦



⑨東京YMCAが優勝

第7回極東選手権大会マニラへ



⑩大阪YMCA



⑪名古屋YMCA